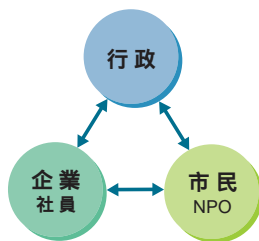


行政や地域との活動

循環型社会を実現するためには、国・企業・市民団体・個人などすべての地球市民が環境負荷の削減に努めるとともに、お互いが示唆しあい、協力することも重要です。そのためには「企業」「行政」「市民(NPOなどを含む)」が、より深い対話関係を築く必要があります。正しい情報開示のもとに、コミュニケーションを図り、お互いの信頼関係を築き、良いパートナーシップで社会をつくっていくために、地域のリーダーシップを担う企業が、強く求められています。リコーグループは、コメントサークル*のグリーンパートナーシップに基づき、循環型社会の実現に貢献するために、世界各地で行政や市民の方々とコミュニケーションや積極的な働きかけを行っています。

* 9～10ページを参照。

企業、行政、市民のパートナーシップ



行政とのパートナーシップ

環境行政を官民一体で検討する懇談会「環(わ)の国づくり会議*」の構成員に桜井社長が選ばれ、2001年3月1日、第1回会議が首相官邸で開催されました。

また、現場感覚に立つて国の環境行政を立案・実施するための活動の一環として、2001年1月24日、環境省・川口順子大臣がリコー沼津事業所を視察されました。

* <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/wanokuni/index.html>

NPOとのパートナーシップ

自然環境を考えるNPOとのパートナーシップとして、森林保全社会貢献プログラム(51ページを参照)を実施しているほか、日本自

然保護協会*1や、日本野鳥の会、WWFジャパン、緑の地球ネットワーク*2、日本生態系協会*3などへの寄付なども行っています。また、WWFジャパンに対して、地球温暖化防止ビジネスワークショップの会場を提供しています。

*1 <http://www.nacsj.or.jp>

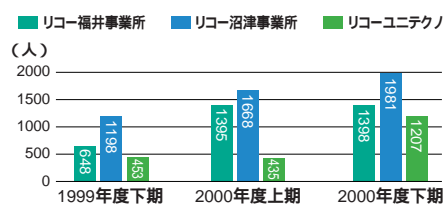
*2 <http://member.nifty.ne.jp/gentree/>

*3 <http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

地域や他企業とのパートナーシップ

リコーグループは、国内のすべての生産事業所、およびフランス、アメリカ、メキシコの全生産事業所でごみゼロを達成しています。また、見学受け入れなど、そのノウハウの開示も積極的に行っています。

主な事業所の工場見学受け入れ状況



世界の事業所で地域に密着した活動を展開
リコーグループは、グループ全体としての環境負荷を削減する活動だけでなく、それぞれが事業を行っている地域に密着したコミュニケーション活動を積極的に展開。循環型社会づくりの「環」を、世界各地で広げています。

リコーUKプロダクツ(イギリス)

リコーUKプロダクツは、地元テルフォード地域の環境活動を推進する「BEST (Business Environmental support scheme for Telford)」の創立メンバーの一員。メンバーは企業人であるとともに、地元人でもあるため、企業と地域の関係が作りやすいのが特長です。また、地元のさまざまな企業で構成される「ローカルアジェンダ21」

にも参画。市民の方々とコミュニケーションを図りました。

REI(アメリカ)

アメリカには「School/Business Partnerships」という、学校がビジネスパートナーを集めようとする動きがあり、これに対して工場近隣の7校をサポート。各校に毎年4000ドルずつ寄付しているほか、社員が学校を訪問し、社会に出たときの仕事を説明したり、本の朗読などを行っています。また、従来から赤十字に対する貢献を重視し、毎年2万ドルを寄付しています。

リコータイ

NPOの「マテリアル・リサイクル・センター」とのパートナーシップのもとに、使用済み製品のリサイクルを行っています。当センターは、「廃品回収業者を育成して生計を立てられるようにすること」「貧困から麻薬に手を出した子供達を更正させること」を使命としており、アルミ、鉄、プラスチックなどに分解・分別し素材を売った代金は、子供を麻薬から守る基金に役立てられています。

リコー福井事業所

新聞紙や料理用の油を、工場のリサイクルルートにのせて再資源化。リサイクルルートが確立していない地域に住む社員が、家庭の資源ごみを持ち寄っています。また、ピオープを拡張し、近隣の児童や学生を招いての環境啓発活動も継続的に行っています。2000年度は、305名の児童、105名の高校生、54名の幼稚園・小学校の先生方が訪れました。



社員の自由意思のサポート

リコーは「環境ボランティアリーダー養成プログラム*」や「社会貢献クラブ・Free Will」などによって、社員の自由意思をサポートしています。地域社会への積極的な働きかけによって、社員一人ひとりが地球市民や企業市民としての意識や行動を学び、より多くの人に伝えていこうとしています。

* 53～54ページを参照。

社会貢献クラブ・Free Will

リコーは、社員が中心になった社会貢献活動を推進するために、1999年1月、「社会貢献クラブ・Free Will」を結成しました。会員になった社員は、給与・賞与から端数を献金し、集まった資金は、寄付金として社会貢献活動に役立てられます。活動のテーマ設定や寄付先の決定など、クラブの運営は会員社員から選出された運営委員が行っています。また、リコーも寄付額と同額を上乗せする「マッチングギフト制度」によってFree Willの活動をバックアップしています。

H・O・P・E

REI(アメリカ)のカリフォルニア工場では「H・O・P・E(Helping Others & Protecting Our Environment)」というチームを結成し、近隣の小学校や養護施設の美化を行っています。この活動は「環境に則った社会貢献」というテーマで、社員からアイデアを募集して行っているものです。また、地域のNPOのために、社員がバーベキューやアイスクリームの販売を行って資金集めをしたり、会社でも同額を寄付するマッチングギフト制度があります。



小学校の美化運動の一環として描いた壁画

社会貢献クラブ・Free Willの活動報告

2001年1月で、3年目を迎えるFree Will。すでに40団体以上に、寄付や人的支援を行ってきました。その活動内容の一部をご紹介します。

聴導犬育成の会

米国では約2000頭が活躍している「聴導犬」も、日本では公的補助もなく知名度も低いのが現状です。同会は、聴導犬の育成と普及活動を行っている福祉団体。Free Willは、1999年9月に寄付を行い、2001年3月に講演会を開催しました。「今まで一頭だけのデモ犬で、余裕のない状態であちこちの講演会場を回っていました。暖かいご支援は、もう一頭のデモ犬の訓練費用にさせていただきます。これからも多くの場所にお邪魔し、たくさんの人に聴導犬の存在を知っていただきたいと思っています。(代表:松田治子さん)」



日本網膜色素変性症協会

網膜色素変性症は、網膜が徐々に萎縮していく進行性の病気で、国の「難病指定」を受けており、日本に約5万人の患者さんがいると推定されています。治療法の確立とともに患者さんへの情報提供と心のケアが急務となっています。「2002年8月、私たちが主催し、日本で『網膜の日 世界大会』を開催いたします。貴社から頂戴いたしました浄財は、その世界大会の準備・運営費用として使わせていただくと考えております。(会長:釜本美佐子さん)」



レクイエムロード実行委員会

阪神淡路大震災で失われた命の鎮魂のために、桜並木(レクイエムロード)をつくろう。10年前から全国各地で植樹活動を行っている、シンガーソングライターのしらいみちよさんの呼びかけで、この運動が始まりました。苗木の購入費を支援するとともに、数多くのボランティアの方々と一緒に、Free Willのメンバーも植林を行いました。「四月に入り苗木たちは元気に若葉を出しました。大きく育ってゆくことを願うばかりです。これからもコツコツ植えてゆきたいと思っていますので、よろしく願い申し上げます。(しらいみちよさん)」



チュチュの会

車椅子の子供達のためのイベントサポートを行っているボランティアグループです。Free Willは、2000年5月に開催されたイベント「気球体験」を支援しました。「普段は外に出る機会にさえ恵まれない子供達にとって、またとない経験になりました。ボランティアの方がたくさん集まってくれたこと、また熱気球をあげるための資金を援助していただき、今回の事業を成功させることができました。(代表:内田政子さん)」

